

第4講 19世紀のアメリカとアジア

基礎学習

● [] の中に適切な語句や数字を入れて、要点を整理しよう。(解答は解答解説 P.7)

この講の流れ図

オスマン帝国	イラン	アフガニスタン	インド	東南アジア
17世紀末以降ハンガリーや黒海北岸などヨーロッパ勢力により領土喪失	カージャー朝の成立 (1796年)	アフガン王国成立 (1747年)	ブラッシーの戦い (1757年)	スペイン：16世紀以来、マニラを拠点としてフィリピンを支配
ギリシア独立 (1829年)	トルコマンチャーイ条約 (1828年)	第1次アフガン戦争でイギリスに勝利 (1838～1842年)	イギリスの支配拡大 マイソール戦争 マラーター戦争 シク戦争	オランダ：ジャワ島・スマトラ島他でオランダ領東インドを形成、ジャワで強制栽培を実施(19世紀)
エジプト=トルコ戦争 (1831～1833/ 1839～1840年)	バーブ教徒の乱 (1848～1852年)		インド大反乱 (1857～1859年)	フランス：19世紀末にベトナム・カンボジアでインドシナ連邦形成(後にラオスを編入)
タンジマート開始 (1839年)		第2次アフガン戦争を機にイギリスの保護国化 (1880年)	インド帝国成立 (1877年)	イギリス：19世紀中にビルマ・マレー半島を植民地化
ミドハト憲法 (1876年)				
ロシア=トルコ戦争(露土戦争)でセルビア・モンテネグロ・ルーマニア独立 (1878年)				

1) 19世紀におけるアメリカの動向

① 移民とラテンアメリカの動向

- 多くのヨーロッパ人がアメリカ大陸に入植。先住民の [] や奴隷との人種混交が進展。
- [] ・ポルトガルなどの植民地であった地域では、1830年までにカリブ諸島を除くほぼ全域で独立→富裕な白人地主階層である [] が独立運動を担った。
- スペイン・ポルトガル本国が [] の軍に侵入され支配体制が動揺。ポルトガル王室は植民地の [] に脱出。ナポレオン戦争後、国王は帰国したが、皇太子は同地に残り、独立を宣言。
- スペインの植民地では [] らの活躍により、独立戦争は植民地側に有利に展開した。
- アメリカは、1823年、 [] を発し、南北アメリカ大陸とヨーロッパの相互不干渉を唱えた。 [] 主義をとり、ヨーロッパ国際政治との関わりを避けるようになった。

② アメリカの発展

- ジェファソン大統領の下、1803年、フランスから [] 地域を購入。オレゴン地域をイギリスと共同統治とした。 [] (1846～48年)でカリフォルニア地域も獲得し、大陸を横断する国家となった。カリフォルニアで1848年に金鉱が発見。新たに領土となった地域は人口が増大すると州となった。
- 19世紀半ばの [] の人口は、ロンドンやパリに次ぐ規模となった。移民が増大するなかで、先住民は居住地を奪われ、西部に [] させられた。
- アメリカ合衆国では連邦政府と州政府のどちらが大きな権限をもつかが争点→当初は連邦派が優位→選挙を経て、反連邦派が優位。反連邦派の一部は、のちの [] につながった。
- 北部は [] (1812～14年)によって貿易が途絶えたことにより、産業革命を実現。南部は奴隷

制に基づく [] 栽培が経済の基盤。奴隷制を容認する南部と反対する北部で対立が深刻化。

- 奴隷制反対派は**共和党**を結成し、その支持の下、1861年、[] が大統領に当選した。
- リンカーンは南部を懐柔しようとしたが、南部は連邦を脱退し、[] を結成→ [] 開戦(1861～65年)→開戦当初は南部が優勢→北部は開拓者優遇政策をとり、1863年、リンカーンは [] を発表→鉄道を活用し、ライフル・機関銃、装甲船など、新兵器を用いた北部が勝利。
- 西部では [] など、交通革命の恩恵をうけ、農業が発達。鉱物資源に恵まれていたアメリカでは工業も発展し、南部でも工業化が進展。南部では奴隷解放が進んだが、人種差別の問題は残存した。

(2) アジア情勢の変容と植民地化

① 西アジアの動向

- 19世紀に入ると、西アジアとバルカン半島を支配してきた [] は内外からの危機に直面→ [] の自立は抑制できなくなり、バルカン半島ではギリシアなどで民族独立運動が高揚。
- 産業革命を進め、オスマン帝国の領域を重要な市場と考えるヨーロッパ諸国は、帝国内の諸民族の分離・独立運動に干渉しながら進出。イギリス・ロシアなどは覇権をめぐり対立→ [] 。
- エジプトでは、ナポレオンの遠征軍が撤退したあと、オスマン軍人の [] が民衆の支持を得て、1805年にエジプト総督となった。徴兵制を導入して、オスマン帝国にまさる軍事力を育成した。
- ムハンマド＝アリー朝(1805～1952年)は国力を強めたが、1838年に締結されたトルコ＝イギリス通商条約がエジプトにも適用され、エジプトも専売の利益と [] を失い、経済発展の道が閉ざされた。
- エジプトは、フランスの [] 建設計画に許可を与え、1869年に開通を実現させた。しかし、巨額の債務を負い、イギリス・フランスの財務管理下におかれ、内政の支配も受けるようになった。
- 外国の支配に反抗し、1881年から翌年にかけて、軍人の [] が、「エジプト人のためのエジプト」を掲げ、武装蜂起した。イギリスは単独でエジプトを軍事占領し、事実上保護下においた。
- オスマン帝国では、スルタンアブデュルメジト1世の下、1839年、[] と呼ばれる、司法・行政・財政・軍事・教育にわたる西歐化改革が実施された。
- バルカン半島のスラヴ系諸民族の反乱やロシアの干渉といった危機を打開するため、1876年末、オスマン帝国は大宰相 [] の起草した、二院制議会の制度を明記するオスマン帝国憲法を發布した。
- [] と呼ばれるオスマン帝国憲法は、宗教・民族の区別を問わずすべてのオスマン人に自由と平等を保障するものであったが、議会の急進化を恐れた34代スルタンの [] は、ロシア＝トルコ戦争(露土戦争、1877～78年)を理由として、1878年に議会を停会させ、憲法も停止させた。
- オスマン帝国はロシア＝トルコ戦争でバルカン半島の領土の大半を失ったが、スルタンは [] (イスラーム教徒の共同体を指揮した者の称号)の権威を示して専制を行い、帝国の維持をはかった。
- イランの [] (1796～1925年)はロシアとの戦争に敗れてカフカスの領土を割譲、ロシアに通商上の特権を認めた。国内では専制的な統治を行った→ムスリム知識人は「イスラーム世界の危機」と認識。
- イラン出身の思想家・革命家 [] は、スンナ派とシーア派の別なくムスリムの覚醒と連帯を訴えた([] 主義)→エジプトの反英民族運動、イランのタバコ＝ボイコット運動に影響。

② インドの植民地化

- インドでは、[] (1526～1858年)が衰退し、ヨーロッパ勢力が進出。イギリス東インド会社は、1757年の [] でフランスに勝利してベンガル地方で勢力を伸長させ、その後徴税権を獲得。また、南部での**マイソール戦争**(1767～99年)、西部での [] (1775～1818年)、西北部の**シク戦争**(1845～49年)にも勝利し、19世紀半ばまでにインド全域をほぼ制圧。
- イギリス東インド会社は、すべての地域を直接支配したわけではなく、一部の地域を [] として旧支配者を残し、外交権を奪って間接統治を行った。
- 産業革命後、インドには、イギリス製綿糸や綿織物が流入。1810年代末には輸出入額が逆転→19世紀前半のインドは、イギリスに [] や藍などの原材料を輸出、イギリスから綿織物などの工業製品を輸入。

イギリスに対する貿易赤字は、清への [] 輸出やアフリカへの綿織物の輸出で補われた。

- 1857年、インド人傭兵([])による反乱が北インド全域へと拡大→イギリスはこれを鎮圧し、1858年には東インド会社を解散してインドを直接支配(ムガル帝国は滅亡)。1877年、イギリスのヴィクトリア女王がインド皇帝に即位し、イギリスの支配下で [] が成立した。

③東南アジアの植民地化

- 19世紀になると、[] は、ジャワ島はじめ、インドネシア全域に植民地支配を拡大。コーヒーやサトウキビ、藍などの [] 制度を導入。低く設定した指定価格で購入し、利益をあげた。
- マレー半島では、イギリスが1826年にペナン・マラッカ・シンガポールを [] とした。
- イギリスは、1895年、[] を結成させて保護国とし、中国やインドからの移民労働力によって錫や [] の生産を拡大した。
- [] はイギリスによって3度攻撃を受け、1886年、インド帝国に併合された。
- スペインの支配するフィリピンでは、欧米諸国からの自由貿易の求めに応じ、1834年、[] が開港→サトウキビ・麻・タバコなどの輸出向け商品作物の生産が拡大、[] の大土地所有制が成立。
- ベトナムでは、フランス人の協力の下、1802年、[] が阮朝を建てた→1858年、カトリックへの迫害を口実に、フランスが軍事介入し、サイゴンを占領→1873年、劉永福が組織した [] がフランスに抵抗→これに対し、フランスはベトナム北部と中部を支配下においた→清はベトナムの宗主権を主張し、1884年から翌年にかけて [] がおこった。
- 清仏戦争の結果、1885年に [] が締結され、清はベトナムがフランスの保護国となることを承認→フランスの保護国だったカンボジアとあわせ、1887年、[] が成立(のちラオス加入)。
- 東南アジアで唯一、植民地化を回避したタイでは、[] の時代の1855年、イギリスとパウリング条約が締結され、自由貿易が行われるようになった。米の輸出が進展し、デルタ地帯の水田開発が進んだ。チュラロンコン([])は、イギリスとフランスの勢力均衡策を利用してタイの独立を維持。

(3) 中国と日本の動向

①アヘン戦争

- 中国は、諸外国との外交関係を皇帝への [] と認識。使節を派遣しない国からの貿易船の来航も認めており、ヨーロッパの船の来航は [] に限って認めていた→イギリスは自由貿易を求め、18世紀末から使節団を送った→清はこれを「朝貢使節」として迎え、自由貿易の要求には応じなかった。
- イギリスはインド産 [] を中国に密輸、インドには [] を輸出、中国からは [] を輸入し、[] 貿易を展開。
- 清がアヘンの吸引と輸入の厳禁をはかるため、広州に [] を派遣。
- 1839年、林則徐がイギリス商人のアヘンを没収すると、イギリスは1840年に損害賠償と自由貿易の原則による通商条約の締結を求めて [] をおこした。イギリスは汽走軍艦を含む艦隊で中国沿岸各地を攻撃。イギリス艦隊が長江をのぼり [] に迫ると清は降伏→1842年に [] 締結。
- 南京条約では、清は広州や上海など東南部沿岸の5港を貿易港として開港。イギリスに [] 島を割譲し、賠償金を支払った。翌年には外国人に対する [] (治外法権)や一方的な [] を認め、関税自主権がない不平等条約(五港(五口)通商章程、虎門奏追加条約)が結ばれた。1844年にはアメリカ・フランスとも同様な条約(望厦条約、黄埔条約)を結んだ。
- 貿易港には外国人の居住が認められ、上海などでは [] が形成。
- 中国への工業製品の輸出が期待したほど拡大しなかったため、イギリスは1856年、フランスとともに [] (1856~60年)をおこした。英仏軍は広州を占領し、海路北上して天津に迫り、1858年に [] を結んだ。翌年、批准書交換の使節の入京を清軍が武力で阻止したことを機に、1860年には北京まで侵攻し、 [] を結んで、天津・漢口など11港を開港させた。

○清と国境を画定する条約を結んでいたロシアは、第2次アヘン戦争中の1858年にアムール川以北をロシア領とする [] を結んだ。

② 太平天国の乱

- 中国では租税を [] で納めていたため、貿易で銀が流出しその価格が上がると、日常使う銅銭を銀に交換して納税する民衆の負担が増した→ [] による増税とともに民衆の生活を圧迫。
- キリスト教の影響を受けて**拝上帝会**を組織した [] は、広西省で拳兵し、1851年に [] を建て、1853年には南京を占領して首都とした。
- 太平天国は、満州人の清朝を倒すことを呼びかけ、男女平等、 [] の均分などを唱えて民衆の支持を集めた。1860年の北京条約で清に要求が受け入れられると、中立だった欧米は清側についた。
- 清の正規軍は弱体化していたが、**曾国藩**や [] といった漢人官僚が組織した地方義勇軍(郷勇)が、外国人の創設した [] と協力して太平天国を攻め、1864年に滅ばした。
- 漢人官僚は、清朝で勢力を強め、 [] を開始した。ただし、彼らの多くは、政治制度など統治の本体に関わるどころでは中国の方が優れているとする「 [] 」の考え方をとった。1861年、朝貢関係にない国との外交や技術導入を担当する [] をおいた。

③ 朝鮮と日本の動向

- 朝鮮では1863年に政権を握った [] がフランス人宣教師らを処刑。フランス艦隊の攻撃を受けた。通商を要求したアメリカ船も焼打ちし、攻撃を受けた。朝鮮は欧米からの通商要求をいずれも退けた。
- 1792年に [] が根室に、1804年には [] が長崎に来航→江戸幕府はこれらのロシア使節による通商要求をいずれも拒否。1810年代の**ゴローニン事件**で両国は人質を交換し、緊張は緩和。
- 1825年には [] を発令→アヘン戦争を契機に、1842年、 [] を発令。
- 1853年、 [] が来航→老中 [] を中心に、**台場**を建設するなど防衛対策を強化。
- 1854年、ペリーが再来日、 [] 締結→**下田・箱館開港**、下田に領事駐在、片務的最恵国待遇。
- 1856年、下田にアメリカ総領事 [] が着任→1858年、 [] 締結→**神奈川・長崎・新潟・兵庫の開港**、江戸・大坂の**開市**。 [] の承認、 [] の欠如など、不平等条約。
- 1858年、オランダ・ロシア・イギリス・フランスとも同様の条約を締結。これらの条約締結に際し、**孝明天皇**は、勅許を与えなかった。**大老井伊直弼**は無勅許でこれらへの調印を断行し、翌1859年、 [] ・長崎・箱館で貿易が開始された。
- 井伊直弼は、1858～59年の [] で反対派を弾圧。しかし、1860年の [] で殺害された。その後幕府は [] をめざし、孝明天皇の妹和宮を14代将軍**徳川家茂**の妻に迎えた。
- 1862年、朝廷の要請をうけいれて実施された**文久の改革**では、**徳川慶喜**を [] とした。
- [] は朝廷に対する影響力を強め、1863年には朝廷の命として家茂を上洛させて攘夷を約束させ、自らも**関門海峡**を通過する外国船を砲撃→翌1864年、 [] で攘夷の不可能をさとした。
- 薩摩藩は、1862年、イギリス人を殺傷する [] をおこした→1863年、 [] へ。
- 1863年、薩摩藩や会津藩は、 [] で長州藩勢力を京都から追放→長州藩は勢力回復のため、京都へ進軍したが、1864年の [] で敗れ、幕府による追討をうけた(第1次長州征討)→四国艦隊から下関を砲撃されていた長州藩は幕府に従う態度をとった。
- 長州藩では、身分を問わない志願者による [] を率いた**高杉晋作**らの拳兵によって、**桂小五郎(木戸孝允)**ら倒幕派が実権を掌握→幕府は再び長州征討を宣言(第2次長州征討)。
- 長州藩の倒幕派と関係を深めてきた [] や**大久保利通**は、土佐藩出身の [] や**中岡慎太郎**の仲介で、 [] を結んだ。
- 1859年に始まった貿易では、 [] ・茶・蚕卵紙が輸出品、 [] ・綿織物が輸入品の上位を占めた。当初は輸出超過であったが、のち、輸入超過となった。

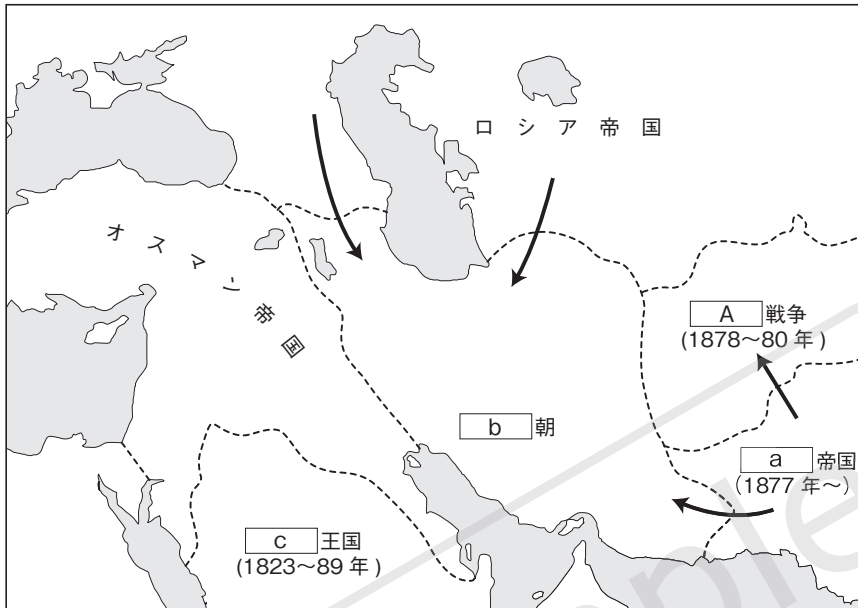
>>> 確 認 問 題 <<<

- 次の問いに答えよ。または、()にあてはまる語句を書け。
- ① 1823年の年次教書で、その後のアメリカ外交の基調となる孤立主義の方針を発表したことで知られる第5代合衆国大統領は誰か。 []
- ② 1848年、()州西部で金鉱が見つかり、太平洋沿岸に注目が集まったことはペリーの日本来航につながった。 []
- ③ オスマン帝国の領域をめぐる国際紛争は、ヨーロッパにおいて、どのように呼ばれたか。 []
- ④ 世界の交通網を大きくかえた、地中海と紅海を結ぶ、全長162kmのスエズ運河は、西暦何年に開通したか。 []
- ⑤ アブデュルハミト2世は、憲法に定められた、()〔主にスンナ派の政治権力者の称号〕の大権を行使し、ミドハト＝パシャを追放した。 []
- ⑥ 黒海とカスピ海に挟まれた()の領土は、1820年代にイラン領からロシア領へと変化した。 []
- ⑦ 1880年代前半にエジプトで、立憲制の確立やヨーロッパ列強による内政干渉の排除を求めた運動をおこした軍人は誰か。 []
- ⑧ 1890年代のイランでは、政府が専売利権をイギリスに譲渡したことから、()がおこった。 []
- ⑨ イギリスは、1760年代から1790年代にかけての4次にわたる()に勝利し、南インド支配を確立した。 []
- ⑩ イギリスがインド征服のために展開した最後の戦争とされる1840年代の()ののち、イギリスはパンジャープをイギリス領インドに併合した。 []
- ⑪ 大英帝国最盛期の女王(在位1837～1901年)で、1877年からインド皇帝を兼ねるようになったのは誰か。 []
- ⑫ 1825年から30年にかけて、オランダの支配に対し、ジョクジャカルタの王族が蜂起しておこした戦争は何と呼ばれるか。 []
- ⑬ 清末・中華民国初期の軍人で、1870年代に黒旗軍を組織して対フランス抵抗戦争に参加したのは誰か。 []
- ⑭ 東南アジア諸国のうち、()は唯一植民地化を回避し、チュラロンコン(ラーマ5世)らのもので、行政や司法、学校制度などの近代化を実現した。 []
- ⑮ ほかの国との条約において、相手国に有利な新たな権利を認めた場合、それを同様に適用し、条約上もっとも広く権利をもつ国として扱うことを何というか。 []
- ⑯ 清の正規軍が弱体化するなかで、軍事力を補うため、地方官らによって組織された義勇軍は何か。 []
- ⑰ 1792年、寛政の改革が行われていた頃、ロシア使節ラクスマンが()に来航し、通商を要求した。 []
- ⑱ 東インド艦隊司令長官ペリーが、アメリカ大統領の国書を持参して浦賀に来航したのは西暦何年か。 []
- ⑲ 1858年に締結された日米修好通商条約は、日本側が領事裁判権を認める、かつ()を認められていない不平等条約であった。 []
- ⑳ 長州藩士で、明治期にも活躍し、西郷隆盛・大久保利通とともに維新の三傑に数えられるのは誰か。 []

基本問題

1 次の地図中のa～cにあてはまる国名または王朝名、Aにあてはまる戦争の名称を書け。

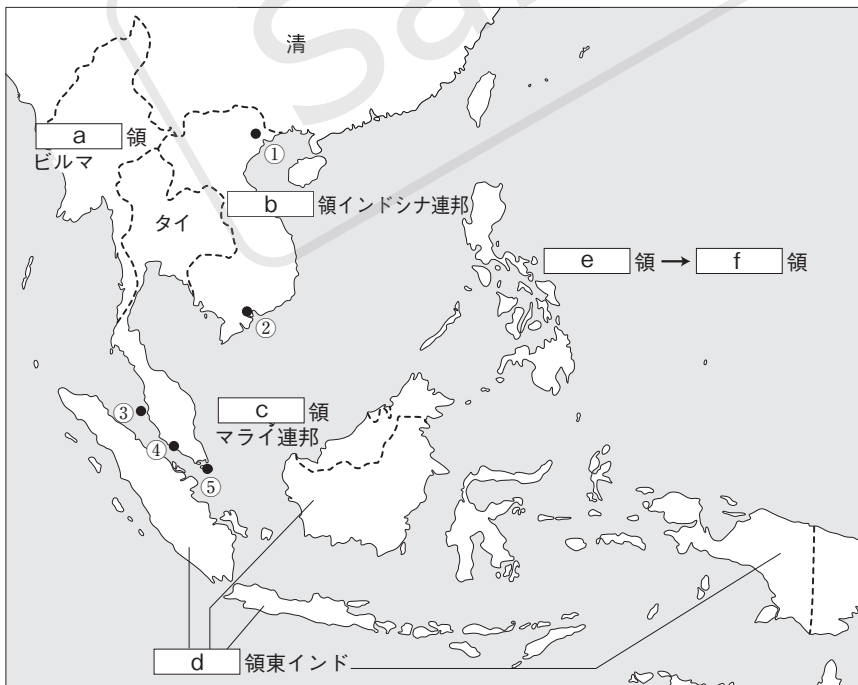
▼19世紀後半から20世紀初頭の西アジア



- 1
- a _____ 帝国
- b _____ 朝
- c _____ 王国
- A _____ 戦争

2 次の地図中の①～⑤にあてはまる都市または島名、a～fにあてはまる国名を書け。

▼列強による東南アジアの植民地化



- 2
- ① _____
- ② _____
- ③ _____ 島
- ④ _____
- ⑤ _____
- a _____
- b _____
- c _____
- d _____
- e _____
- f _____

演習問題

① インド・東南アジア 列強のインド・東南アジア進出に関する以下の設問に答えよ。

- (1) ヨーロッパ列強のインド進出について述べた文 a・b の正誤の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
- a フランスはインド西岸のマドラスに根拠地を築いた。
 b イギリスはブラッシーの戦いに勝利してインドの覇権を握った。
- ① a-正 b-正 ② a-正 b-誤
 ③ a-誤 b-正 ④ a-誤 b-誤
- (2) イギリスのインド統治について以下の設問に答えよ。
- (i) イギリスのインド進出と統治にあたった組織を何というか。
 (ii) (i)の組織は1858年に解散されたが、そのきっかけとなった事件を何というか。
- (3) 列強の東南アジア進出について述べた文 a・b・c の正誤の組合せとして正しいものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。
- a オランダはスマトラ島で強制栽培制度を始めた。
 b スペインはマカオを根拠地としてフィリピンを支配した。
 c イギリスはシンガポールを拠点に海峡植民地を形成した。
- ① a-正 b-正 c-正
 ② a-正 b-正 c-誤
 ③ a-正 b-誤 c-誤
 ④ a-誤 b-正 c-誤
 ⑤ a-誤 b-誤 c-正
 ⑥ a-誤 b-誤 c-誤
- (4) 東南アジアで唯一独立を維持した王国の国名を書け。

(1)					
(2)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">(i)</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(ii)</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> </table>	(i)		(ii)	
(i)					
(ii)					
(3)					
(4)					

② 東アジア 列強の進出に動揺する東アジアに関する以下の設問に答えよ。

- (1) 19世紀前半における清国について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
- ① イギリスのマカートニーが、貿易の交渉のために来朝した。
 ② インド産アヘンの流入で、大量の銀が流出した。
 ③ 列強との戦いに敗れて、上海や南京を開港した。
 ④ 清仏戦争の天津条約でベトナムの宗主権を放棄した。
- (2) 19世紀における日本について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。
- ① 長州藩と薩摩藩は、坂本龍馬や中岡慎太郎の仲介により薩長同盟を結んだ。
 ② 薩摩藩がイギリス人を殺傷する生麦事件をおこしたため、翌年薩英戦争が勃発した。
 ③ 井伊直弼は、孝明天皇の勅許がないまま日米修好通商条約への調印を断行した。
 ④ ロシア使節のラクスマンが根室に来航したが、江戸幕府は長崎での交渉を認めた。
- (3) 太平天国に関する以下の設問に答えよ。
- ① 1851年に太平天国の乱を建てたのは誰か。
 ② 太平天国の滅亡に関わった、漢人官僚が自身の故郷で組織した地方義勇軍のことを何というか。

(1)					
(2)					
(3)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20px; text-align: center;">①</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">②</td> <td style="width: 80px; height: 30px;"></td> </tr> </table>	①		②	
①					
②					

③ 条約の締結 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

1853年に東インド艦隊司令長官(①)が浦賀に来航、強く通商条約の締結を求めたが、鎖国を祖法とする幕府は、a和親条約を結んで妥協した。1856年に総領事として赴任した(②)は、b英・仏の清国侵略の実態や脅威を説いてアメリカと条約を結ぶことを求め、1858年、ついに、c日米修好通商条約を締結した。

(1) 空欄(①)・(②)に入る人名の組み合わせとして適切なものを一つ選べ。

- ア ①ーブチャーチン ②ーパークス イ ①ーペリー ②ーハリス
ウ ①ービッドル ②ーオールコック エ ①ーペリー ②ーフィルモア

(2) 下線部aについて述べた文章として誤っているものを一つ選べ。

- ア 日本は下田・箱館の2港をひらき、下田への領事駐在を認めた。
イ 燃料や食料の供給、遭難の際の援助を約束した。
ウ 日本に一方的な最恵国待遇を与えた。
エ この条約の交渉の際、幕府は朝廷に報告、諸大名や幕臣にも意見を徴した。

(3) 下線部bに関連して、②の人物と交渉中におきた出来事として適切なものを選べ。

- ア フランス商船モリソン号の通商要求を清国が拒否、フランスがアモイを占領した。
イ アヘン戦争でイギリスに敗れた清国が香港を開港し、開国した。
ウ アロー号事件の結果、清国が天津条約を結んだ。
エ 清国との戦争に勝利したフランスが広州湾を租借した。

(4) 下線部cに関連して、通商条約の内容として誤っているものを一つ選べ。

- ア 関税自主権の設定 イ 開港場に居留地設定 ウ 領事裁判権の設定
エ 開港場周辺の外人遊歩区域設定

③

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

④ 開国・貿易の影響 次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

輸出においては生糸が、aその首位を占めたが、輸入では大量の、b繊維製品があった。貿易額の急激な増加による経済的混乱を改善するため、1860年、c五品江戸廻送令を定めたが、d所期の効果をあげず、e経済的・社会的な混乱は増大していった。

(1) 下線部aに関して、この時期を通じて第2位であった輸出品は何か。

- ア 茶 イ 海産物 ウ 蚕種 エ 米

(2) 下線部bに関して、それらの繊維製品とは何か。

- ア 毛織物・綿織物 イ 毛織物・絹織物 ウ 綿織物・絹織物

(3) 下線部cに関して、ろう蠟・生糸以外の3品とは何か。

- ア 海産物・水油・茶 イ 雑穀・水油・茶 ウ 雑穀・水油・呉服

(4) 下線部dに関して、効果があがらなかったのは生糸であったが、それは何故か。

- ア 地方商人や外国人の反対のため イ 国内の生産高が急減したため
ウ 生糸の輸出価格が低下したため エ 江戸の間屋商人が取引を辞退したため

(5) 下線部eに関連して、誤っているものを一つ選べ。

- ア 日本と外国とで金銀比価が大きく異なったので、日本の金貨が大量に流出した。
イ 外国人襲撃事件があいつぎ、犯人は条約の定めに従い、外国領事が裁判した。
ウ 庶民の生活は、物価の高騰で苦しくなった。
エ ええじゃないかの民衆乱舞が発生し、大政奉還・王政復古が発せられた。

④

(1)	
(2)	
(3)	
(4)	
(5)	